

# ほたるの里文化の再生

益田市立二条公民館

## 1 二条公民館の概要

二条地区は、益田市街地の西南約 15 km に位置し、山口県萩市田万川町と接している。周囲を山に囲まれ、東西には二つの柏原川と桂平川が流れて二条川となり、清流日本一の高津川の支流白上川に注いでいる。また、海拔約 90 m ほどの地域に町の中心があり、南には、益田市の指定文化財で喜島備後守の居城の「横山城跡」



(350m) と、北には益田家ゆかりの黒谷周防守の「原城跡」の二つの城址がある。この二つの城と二つの川から、二条という名が付いたと言われている。

人口は、昨年の 12 月末現在で、596 人。世帯数は 272。高齢化率は 44.8% である。自治会の数は 5。公民館、小学校、中学校、保育園、郵便局、農協支所、デイサービスセンター等がある。

なお、気候は比較的温暖で、冬の積雪もほとんどなく、自然豊かで典型的な日本の農山村風景の「里山」が広がる「中山間地域」である。

## 2 事業の概要

### (1) 事業のねらい

二条地区は、平成 2 年の「第 1 回ほたる祭り」の開催から、本格的に「ほたるの里」として地域の活性を図ってきた。また、環境美化や環境保全、文化振興にも努め、それを伝統として守り、今日まで継承してきた。しかし、近年過疎化や少子高齢化が急速に進行し、



その活動内容も当初の勢いはなくなり衰退してきた。年一度の『ほたる祭り』は、今日まで 23 年間、なんとか継続実施しているが、形骸化してしまい、地域全体としての盛り上がりには欠けてきた。

そこで、本事業を活用し、この困難な実態を解明して、住民一人一人が初心に立ち返り、「ほたるの里」としての二条をもう一度蘇えらせ、地域を元気にしたいと考えた。

そして、そのための活動が、地域住民一人一人の活力となり、地域全体の活性化に繋がる。また、ホタルにも人にも優しい環境づくりは地域で生まれ育った子どもたちに、「ほたるの里二条」として、いつまでも心に残るふるさと学習であり、愛着と誇りを持たせてくれる。

## (2) 具体的な取組

### ア 二条ほたるの里再生会議の設立準備会議の開催

期日：平成 24 年 8 月 27 日（月）

場所：二条公民館

地区内各自治会、各種団体、各種サークル団体、学校等に会議案内を出し、6月に県庁で行った醸成プログラムのプレゼンテーションを、再度地域住民の前で発表。名称（案）、会則（案）、役員（案）の提示。設立会議の日程内容等の確認。参加者 26 名。



### イ 二条ほたるの里再生会議の設立総会開催

期日：平成 24 年 10 月 11 日（木）

場所：二条公民館

二条地区各自治会、地区社会福祉協議会、老人会、自治会女性部、商工会、民児協、食改、健康づくりの会、地元の小学校、中学校、保育園、消防団、各種サークル、ボランティア、若者会等の代表者 30 名の出席により開催。名称、会則、役員、及び事業計画、予算の審議をし、承認された。

### ウ 視察研修の実施

期日：平成 24 年 11 月 23 日（金）

場所：山口県下関市豊田町

古くからホタルの名勝地として知られていた豊田町は、昭和 32 年、今から 56 年前にゲンジボタル発生地が天然記念物に指定された。それ以来今日まで、町をあげてホタルと共に活性化に取り組んでいる。その先進地の地域資源を視察研修するため、再生会議の会員 27 名で参加。豊田ホタルの里ミュージアム（博物館）を中心に、ホタル川や地域の自然環境を学んだ。



### エ 講演会の開催

#### 〈現地視察会〉

期日：平成 25 年 2 月 2 日（土）

場所：益田市柏原町

東京ゲンジボタル研究所代表の古河義仁氏を講師に調査を行い、カワニラの生息状況、幼虫生息場所、上陸場所、産卵場所、護岸の状況、休息場所の有無や観察学習を行った。里山の自然についての勉強会も実施。参加者 25 名。



ほたる公園と柏原川周辺

### 〈ほたるの里講演会〉

期日：平成25年2月3日（日）

場所：二条公民館

演題：「ホタルに優しい自然環境と地域の活力を考える」

講師：古河義仁氏

（東京ゲンジボタル研究所代表、日本ホタルの会理事、陸生ホタル生態研究会会員、環境省こどもホタルレンジャーサポーター、内閣府認証NPOホタルの会専務理事）

日本のホタルの生態とホタルの謎や、ホタルに優しい環境について詳しく講義を受けた。また、「ほたる」をシンボルにしての地域づくりのヒントをたくさん得た。「北は北海道から、南は宮古島まで行った経験でも、この二条は「超一流の田舎」「人々が忘れかけている日本の原風景がある場所」。「日本でも一、二番の『里山』が今でも残る地域だ。」とのこと。この地はほたると共に、人にも優しい素晴らしい故郷だと再認識できた。参加者 50 名。



### オ 研修会の参加

第8回人づくり・地域づくりフォーラム in 山口

期日：平成25年2月16日（土）

場所：山口県セミナーパーク

昨年度より地域づくり委員のメンバーを中心に参加している。今年度は、二条ほたるの里再生会議の会員 20 名が参加。沖縄市から札幌市まで全国からの 24 団体の実践事例発表を聴講し研修する。分科会は、「学社融合」「子育て支援」「まちづくり」「協働」「健康・食育」「シニア世代の社会参加」の6分科会である。



### カ 情報発信

インターネットなどを通じて、二条の情報を発信した。また、改訂した「二条マップ」を市内の各公民館、学校、市役所、主な事業所などに無料配布した。さらに地区内外の行事（ウォーキング大会など）や会議などの場所でも積極的に展示し、希望者に配布し宣伝した。

## 3 事業の成果と課題

- (1) 念願であった地域を巻き込んだ組織を設立できたことが、まず大きな成果と言える。5自治会と自治会女性部を中心に、地区の主な団体に協力要請し、大部分が会員となった。今後は、未加入団体への働きかけと、若者グループの参画や、地区外でも応援団として

加入できる会にしていくことも必要である。地域住民一人一人が主体的に関わり、今後の地域づくりを自ら牽引していくという自覚を持ってほしい。

- (2) ほたるを地域資源として活性化している先進地への視察は、とても参考になった。紙面や写真等ではなく、生の地域資源を五感で感じることは、地域興しには不可欠だと思う。なお、参考とする地域の事前調査が課題である。
- (3) 一流の研究者を招へいしての講演会と学習会は、地区民の関心も高く、大盛会であった。地域の中では分からない、気がつかないことの重要性を再認識し、生涯学習の大切さを痛感した。今後も是非継続開催していきたい。また、地域づくりや人づくりの研修会にも積極的に地域で参加し、地区民の学習意欲の醸成に繋げていきたい。

#### 4 今後の方向性

- (1) 二条ほたるの里再生会議の組織化を充実していく。地域内の自治会や地区社協、女性部などの既存の諸団体や組織との連携を密にし、地域全体を意識した横断的で幅広い「地域づくり団体」にしていく。そして、内部に若者や女性を中心にした新しい斬新な感性を持った地域再生の実行部隊を作る。地域づくりは、まず人づくりからと考え、人材発掘、育成に力を入れる。
- (2) ホタルに関する一流の講師の講演会及や学習会を、継続して開催する。また、公民館と協力し、地域住民の生涯学習の一環として学びの機会を定期的に設け、地域の小・中学校や PTA などとも連携して積極的に作っていく。
- (3) 二条のマップの配布や案内を積極的行い、ホタルの里二条の宣伝に努める。さらに、新たな WEB システムを作成し、その立ち上げに伴い周辺機材や環境の充実に努め、インターネット及び Wi-Fi 等の設備を整える。また、案内表示の充実、そして、ガイドボランティアなどの人材養成も今後は必要となってくる。
- (4) 来年度の「第 24 回二条ほたる祭り」は、新鮮で再生した「ほたる祭り」の第一歩にしていく。その主体は、斬新な感性を持った若者や女性を中心にした地域再生の実行部隊が行い、すべてを任せていく。また、新たな WEB システムでの宣伝を積極的に地区内外へ発信していく。
- (5) 「超一流の田舎」として、また、日本でも有数な「里山」を大いに誇りにして、ホタルと人が共存する「二条ほたるの里」を、今後も地域住民が一体となって、守り続けていきたい。